

のしろ児童館だより

小松市北浅井町へ29

TEL・FAX 22-6430

平成30年 1月号

僕は、三番をえらぶ！

児童館の館庭でみんなが遊んでいた時のことです。1年生のA君が少し悲しそうな顔をしてやってきました。そして訴えたことは、「〇〇君がまぜてくれない！」ということでした。1年生にはよくあるパターンです。ちょうどその少し前に別の子が、〇〇君に「いっしょに遊ぼう！」と声をかけている場面を見ていました。そこで〇〇君は、「遊ぶ人は決まっているからダメ」と断っていました。二人で遊ぶよりも三人で遊ぶ方が、豊かな遊びができるとも思いましたが、彼らには彼らの事情があるのかもしれませんが。そんなことを知っているのも、そしてさらにA君にはもう一つのメッセージを伝えたくて、次のようにA君に答えました。

「まぜてくれない時にどうするか・・・3つの方法があるんだよ。それをA君に教えるから、やりたいのをA君がえらんでね。」

「一番目は、ほかの遊びをしている人のところに行って、『まぜて』ということだよ。・・・ほら、あそこの砂場で遊んでいる一年生もいるし、ブランコで遊んでいる人もいるよ。」

「二番目は、先生のところに行って『あそんで』ということ。・・・そうすれば、先生はあそんでくれると思うよ。」

「三番目は、これは難しいけどできるようにしてほしい。・・・それは『一人であそぶこと』をチャンスと考えること。一人で遊ぶ時は、ほかの人のことを考えなくていいから自由に何でもできるよ。これまで出来なかった少し難しいことにチャレンジしてみるのがいいと思うよ。一人でやるんなら出来なくても恥ずかしいこともないし。」

「さあ！A君はどれをえらぶ？」と問いかけると、A君はすかさず「僕は、三番をえらぶ。大きな遊具の柱を下から登ってみたい！」と言って走って行きました。私もいっしょに行って、危なくないか下から見ていました。二度成功するとA君は満足したのか。「こんどは、何をしようかなあ・・・」と言います。「ヤットコ（児童館の遊具のひとつ）、できる？」と聞いてみました。「できない」とA君。「難しいけど、チャレンジしてみたら」と言うと、A君はヤットコにチャレンジしました。簡単にはできませんでしたが、A君は長い間取り組んでいました。

しばらくしてA君のお迎えになりました。お母さんに「三つの選択」の話をして「お母さんならどれを選びますか？」と問いかけました。するとお母さんは「私なら、迷わず三番です！」と答えます。思わず「さすが親子ですね！A君も三番を選びましたよ。」と言ってお母さんと笑い合いました。

子どもたちに伝えたいメッセージは「私は私、そして 私はみんなの中の私」です。どちらも大切です。そのバランスの中に人間はいます。今回はA君に「僕は僕」のメッセージを伝えられたのです。
新しい年の始まりです。今年もよろしく願いいたします。